



# 明化の教育

10月号(第493号)  
令和3年9月30日  
文京区立明化小学校  
校長 熊倉 勝

## 「道徳授業地区公開講座」に寄せて

副校長 松下 由紀子

9月18日(土)は「道徳授業地区公開講座」を予定しており、専門家の講演も取り入れながら、児童・保護者・学校ともに学べることを楽しみにしていました。残念ながら、緊急事態宣言下で授業を見ていただくことはできませんでしたが、「特別の教科 道徳」の授業は、価値項目は違うものの全クラスが実施し、授業内容は配布させていただきました。



「特別の教科 道徳」は従来の道徳の時間から教科として新たに位置付けられました。正しい道徳的価値を確認する側面が大きかったものを、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ことを目標に、より一層、道徳的な課題を自分自身の問題と捉え、考えを深める方向に質的変換を図るという意図がありました。

子どもたちのもつ力には驚くべきものがあります。今年度から一人一台貸与となっているタブレットもすぐに使い方を覚え、よりよく活用しようと積極的に使用しています。新しい使い方を覚えるたびに、知りたいことや表現したいことが増え、自分の世界が広がるのを感じるのでしょうか。しかしながら、子どもたちはあっという間に大人の考えを超えていきます。悪気なく、気付くと背景を自分好みに変えたり、データをダウンロードしていたりということがありました。社会で問題になる SNS のトラブル等も、当初は問題のないものが、流された結果のものもあるのではないのでしょうか。家のパソコン等で使い方を工夫したり友達のすることを真似してみたりと、今求められている自ら学ぶ力につながるものではありますが、しかしこれらのことは、熱中するあまり、本当にそれはしてよいことなのか、判断することがおそろそかになりがちです。

子どもは、その時々で集中して取り組んでいるため、その時自分を客観的に振り返ることはできません。それでも「友達がしているから」ではなく、学校から借りているものを言われたこと以外で勝手にしてはいけない、ダウンロードをする際のリスク等を考え、実行するか自分で判断をしなければならないのです。違和感を覚えた時、強い気持ちで判断することはすぐにできるものではありません。

先日、学校から「  
」を配布しました。今一度、ご家庭でも「なぜこういう約束になっているのか」「してしまうことで、どんな思いをすることがあるのか」話し合うなど、お家の方の思いを通して考えを深める中で、子どもが、相手を思いしつかりした判断し「よりよく生きるための道徳性を養うことができるよう、学校や家庭とともに、様々な場面で機会を捉えて学ぶことで身に付けられるよう勧めていけるよう、進めてまいります。